

外山 脩 造

- ▶ 越後小貫村に生まれ、幼名を寅太といいます。17歳のときに江戸へ出て、清河八郎の「経学文章指南所」に入塾します。わずかの期間学んだ後、すぐに帰郷することになります。長岡で外山脩造の人生に大きく影響を与えた河井継之助に出会います。外山脩造は河井継之助に師事し、勉学に励みます。やがて戊辰戦争が始まり、長岡藩の軍事総督となった河井継之助に従い、行動を共にします。しかし、新政府軍に敗戦、河井継之助は受けた傷が元で戦死します。臨終の際、河井継之助は外山脩三を枕元へ呼び、次のような遺言を残しました。竹田十岐生著の「阪神の百年を創った男 外山脩造伝」(文芸社)から引用しますと、「寅や、おみしゃんは商人になりやい、これからの世はおもしろくなるだで、もう士分は駄目だ。」と言って、外山脩造の能力を高く評価し、商人になることを薦めます。外山脩造は、会津に行き戦おうとしますが、援軍がなく失望し断念します。明治に入り、河井継之助の遺志を継ぐため、継之助の推挙状を持って福沢諭吉の紙幣寮の翻訳家に勤務し、簿記学の翻訳に携わっている時に渋沢栄一の目にとまります。

外山脩造が影響を受けた人物



河井 継之助



清河 八郎



渋沢 栄一

明治12年(1879)1月、大阪にある第三十二国立銀行の総監役に就任し、悪化していた経営の建て直しを見事成功させ、一躍名を挙げることとなります。

明治15年(1882)、日本銀行大阪支店長に就任し、3年間務めます。

明治20年(1887)、欧米の商工業を視察するため外遊に出かけます。

特に学んだことは、石油事業、電気鉄道事業、麦酒醸造事業についてでした。

帰国後は、大阪貯蓄銀行頭取、更には衆議院議員を務めますが、本格的に起業家として力を発揮します。

まず第一に、石油事業ですが、共に事業を起こそうと固い約束をしていた友人の岸 宇吉に裏切られるかたちとなり、この事業に力を注ぐことを断念します。

次に、麦酒事業については、堺の醸造家であった鳥居駒吉と協力し、明治22年(1889)11月、発起人の一人として「大阪麦酒会社」の設立を実現させます。

設立した場所は、当時の地番で「大阪府島下郡吹田村八百六番屋敷」になり、現在の大阪府吹田市西の庄町にあるアサヒビール株式会社吹田工場にあたります。このアサヒビールは、現在、業界でシェア1位2位を争う大企業に成長していることは周知のとおりです。



最後に電気鉄道事業についてですが、神戸大阪間の鉄道敷設計画のあった電気鉄道会社2社を、外山脩造の尽力により合併することになり、明治32(1899)年6月12日、新しい電気鉄道会社を設立させます。

設立当初の社名は、「摂津電気鉄道株式会社」でしたが、同年7月に社名変更し、現在の「阪神電気鉄道株式会社」となります。

外山脩造は、第1回目の取締役会において互選により、初代社長に就任します。

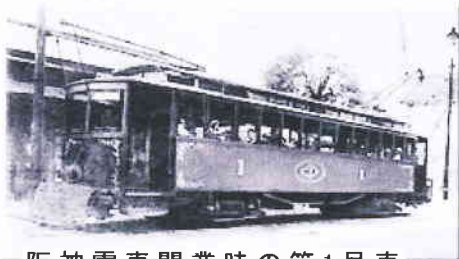
それから6年後の明治38年(1905)4月12日、大阪の出入橋と神戸の加納町の間が開業し、

出入橋駅から第1号車が発車しました。

念願の開業でしたが、外山脩造は、前年より病に倒れていたため開業式には出席できず、堂島の自邸で打ち上げ花火の音で第1号車の発車を確認したそうです。

その後、同鉄道は関西五大私鉄のうちの1社として発展し、現在も走り続けています。

昭和10年(1935)には、プロ野球大阪タイガースが設立されます。これが現在の阪神タイガースで2003年は18年ぶりにリーグ優勝し、関西が盛り上がったことは周知のとおりです。



—阪神電車開業時の第1号車—



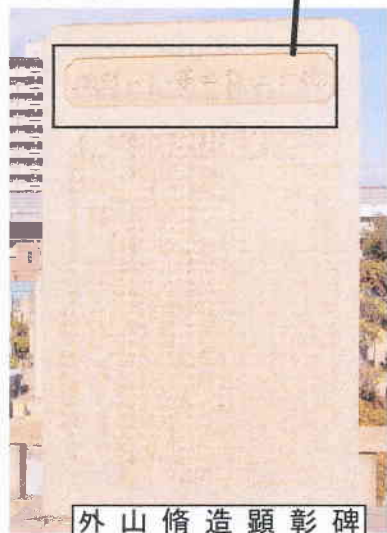
現在の阪神電車



2003年リーグ優勝した阪神タイガース

外山脩造は、大正5年((1916)1月、75歳で亡くなります。

従六位勲四等が贈られています。



外山脩造顕彰碑



竹田 十岐生 (著) 単行本 (初版2002年4月) 文芸社
価格： ¥1,000

10 ど い みち お 土 居 通 夫

▶ 第7代大阪商工会議所会頭を務めたのが土居通夫です。土居通夫は、一生に8度も名を変えており、幼名は万之助といました。宇和島藩出身で、同藩の児島惟謙とは剣友の仲でした。坂本龍馬が宇和島を訪れたという説が残っておりますが、それによりますと、龍馬と土居通夫が剣術の試合を行い、龍馬が3本取ったそうです。

「土居通夫君伝」に『脱藩した竜馬が宇和島を訪れた』とあります。

「新編惟謙」によると『文久元年(龍馬は)宇和島城下に入り、町会所の二階に止宿して、宇和島藩内の御庭番と剣術の試合を行う等、画策するところがあった。(途中省略)児島惟謙は、この時龍馬と面識を得た。』とあります。

龍馬の来訪は、どうやら脱藩後ではなく、脱藩する前だった可能性が高いと思われます。(長州の久坂玄瑞を訪れた際、立ち寄ったのでしょうか)土居通夫は坂本龍馬に会い影響を受けたのか、慶応元年(1865)7月18日、密かに宇和島藩を脱藩しました。



大阪市中央区にある土居通夫像

その後大坂へ出て、心齋橋筋の金貸し屋「高池屋」の手代を務めました。大変な計数家で帳付けから複雑な金利計算までこなしていたといわれます。

剣術の腕もあることから、主人の三郎兵衛が5人組の喧嘩屋に襲われた時も力を発揮しました。後にこのことが新選組の知るところとなり、入隊の勧誘を受けます。しかし、土居通夫は、入隊を断っています。

鳥羽伏見の戦いの折には、いち早く大津へ行き、官軍の兵糧確保のために米問屋に手を打ち、大きな功績を挙げ、前藩主の伊達宗城に賞賛されます。

維新後、土居通夫は、新政府の外国事務局御用掛、さらに兵庫裁判長を歴任します。

その後、大阪の財閥・鴻池家より再建を頼まれたことから実業界に入り、大阪財界の中心人物となります。明治28年(1895)4月に第7代大阪商工会議所会頭に就任しました。

実業家としてだけでなく、俳人としても有名でした。大阪における俳句の名家、八千房家の八代目を引き継ぎ、「八千房八世無腸」という名を持ちます。



土居通夫



土居通夫墓碑

11

た か は し ま さ ず み

高橋正純

▶ 肥後出身の医者。長崎で西洋医学を学び、熊本藩主 細川侯の侍医となりました。

明治7年(1874)、大阪医学校の院長を命じられます。その後、明治21年(1888)、恵まれない

人々の医療施設として、高橋正純、緒方惟準らの医師が、大阪慈恵病院を創設します。

大阪市立弘済院附属病院が吹田市古江台にあります。その前身が大阪慈恵病院です。

大阪慈恵病院は、明治21年2月、当時大阪市内に経済的な理由から病院に行けない人達のための施設がないのを憂えた医学界の先覚者、緒方惟準、緒方拙齋、高橋正純、高橋正直、

山田俊郷など、有志の人びとにより設立されました。まず同年6月、東区唐物町(現大阪市中央区南本町)1丁目円光寺内に仮病院を開設、ついで11月に東区北久太郎町(現大阪市中央区久太郎町)の元浪速尋常小学校跡を購入、これを改築して12月に開院しました。

さらに、明治27年1月、東区(現大阪市中央区)粉川町に転じ、建物設備を整備し、漸次事業を拡張しました。経済的理由から、病院に行けない人達の治療機関としては、明治時代における最大の業績あげました。

その後、昭和19年(1944)、大阪市に移管されましたが、昭和20年(1945)の戦災で焼失しています。四天王寺境内には「高橋正純君碑」という紀功碑が建てられています。



生野区にある大阪慈恵病院跡碑



四天王寺境内にある高橋正純紀功碑

- ▶ 上野理一は嘉永元年(1848)10月、丹波篠山町西町の生糸商西垣屋の家に生まれます。
明治3年(1870)地方の官吏を経て、明治13年(1880)10月、当時まだ大阪の小新聞でしかなかった朝日新聞社へ入社します。
翌年、経営者だった村山龍平から経営の一切を任されることになり、出資金総額の三分の二を村山隆平が、三分の一を上野理一が分担することとなります。
その後の経営を村山と二人で行い、優秀な人材を次々に招き、デモクラシーを社風とする現在の大新聞の基礎をつくりあげました。



上野理一(古写真)